

## 抄録

### 肝性脳症を繰り返す 62 歳女性の食思不振の 1 例

症例) NASH 肝硬変既往にあり、肝性脳症で入退院を繰り返している 62 歳女性。今回も肝性脳症増悪にて原因精査、症状コントロール目的に入院となっていた。肝性脳症はアミルパン点滴などで改善傾向であったが、入院第 6 病日より軽度嘔気出現。第 7 病日からはほとんど食事摂取できなくなり精査の方針となった。はっきりとした原因はわからず、カマイシン、フラジールなどの新規の薬剤を中止し経過をみていたが、第 10 病日の採血にて Hb6.8 と著明な貧血を認め、上部消化管内視鏡が施行された。静脈瘤は認められなかったものの、胃穹窿部、前庭部などに胃粘膜の浮腫と毛細血管の拡張を認め、しみだすような出血を認めていたため門脈圧亢進症性胃症の診断となり、粘膜の焼灼にて止血、その後  $\beta$  遮断薬内服にて再発なく経過良好となった。